

# 平成30年度 学校自己評価システムシート ( 県立深谷はばたき特別支援学校 )

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が専門性とチーム力を発揮して子どもが生き生きと学べる学校</li> <li>・児童生徒の障害特性や発達段階に応じたキャリア教育を推進する学校</li> <li>・共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進拠点の役割を果たす学校</li> </ul>
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒一人一人が主体的に学び合える指導・支援の充実</li> <li>2 各学部のつながりのあるキャリア教育及び自立活動の充実</li> <li>3 インクルーシブ教育システム構築に向けた支援体制とセンター的機能の充実</li> </ol>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			30年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	○児童生徒全員に発達検査の実施と活用、外部専門家の指導助言等から、教員の指導力の向上が図られ、日々の指導・支援が充実した。今年度は、授業の質的向上に繋げるため、昨年度の成果と課題を踏まえ、より具体的な指導内容・方法を活かした児童生徒への指導・支援が課題である。  ○昨年度、教育内容を充実させるため、保護者アンケートを改善した。より具体的な教育活動の評価改善につながるアンケート内容の充実が課題である。	教員の指導力の向上	<ol style="list-style-type: none"> <li>①発達検査の結果を指導・支援により活用するため、研修会を実施し、効果的に指導・支援に反映させる。</li> <li>②児童生徒の主体的活動に繋げる授業づくりに結びつけるため、昨年度作成した実践事例を活用し、外部専門家の指導助言を活かしながら授業改善に取り組む。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①発達検査を授業に活用し認知発達に応じた指導支援ができたか。</li> <li>②実践事例を指導案等に活用し、児童生徒の主体性を引き出す授業づくりができたか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の活用や外部専門家の指導助言から、授業改善を一層進めた。また、保護者アンケートの見直しによる教育活動の評価改善に努めた。</li> <li>①発達検査を授業に活用するために臨床心理士による研修会を実施、認知発達(太田ステージ評価)に対する知識と理解が深まり、効果的な活用が図れた。</li> <li>②昨年度まとめた実践事例(主体性を引き出す授業)を指導案(17回の研究授業)に活用し、授業改善に繋がった。</li> </ul>	A
		保護者アンケートの修正	<ol style="list-style-type: none"> <li>①昨年度改善した保護者アンケートを、より保護者ニーズを取り込み教育活動に反映させるため、保護者アンケートの見直しを図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①質問の趣旨が具体的に保護者に伝わり、評価項目において8割以上の好評価が得られたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者アンケートを見直すことで、具体的な教育活動に対する評価に繋がって92%の好評価が得られた。</li> </ol>	A
2	○開校以来、キャリア教育の視点を踏まえた研究実践を積み重ね、昨年度より実際の授業改善を進めるための研究実践に取り組んだ。この成果と課題を踏まえ、新学習指導要領を見据えた更なるキャリア教育の充実が課題である。	キャリア教育の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>①キャリア教育の更なる充実のため、研究テーマ「児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の充実を目指して」を継続研究し、主体性を引き出す支援についてより研究を深める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①実践研究から、児童生徒の活動面で小・中・高つなげる指導・支援(学習・指導内容等のつながりも含む)を進めることができたか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部での学部研修(6回)や教育課程委員会(9回)を中心に新学習指導要領を見据えたキャリア教育に関する研究が進んだ。</li> <li>①主体性を引き出す支援をキーワードに全学部で研究を進め、小中高つなげる指導・支援が進み、成果をまとめた。</li> </ul>	A
		年間指導計画の見直し	<ol style="list-style-type: none"> <li>①新学習指導要領実施を見据えた、支援プランを指導・支援に活用できるよう、「年間指導計画」の見直しを進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①教育課程委員会と各学部が連携し、新学習指導要領に対応した「年間指導計画」の作成計画が立てられたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各教科や領域、教科領域を合わせた指導の年間指導計画を見直し、自立活動と生活単元学習において先行して書式を作成した。他の教科等でも、作成計画がたてられた。</li> </ol>	A
3	○昨年度までの実績を踏まえて、多様な学びの場を一層充実させるとともに、地域の特別支援教育の推進拠点として、地域連携による教育支援・相談支援等の更なる充実が課題である。	センター的機能の一層の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>①支援籍学習充実に向け、ボランティアの拡充を図る。</li> <li>②高等学校の通級指導を実施する県研究モデル校と連携・協力し、センター的機能の更なる充実を図る。</li> <li>③就学に必要な情報を保護者に提供するため、市町教委と連携し学区教育連絡会、教育支援相談会を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①大学、各関係機関等にボランティア養成に係るPR等の広報活動を行うことで、拡充が図れたか。</li> <li>②モデル校の要請に応じ師範授業を年20回以上、保護者への相談を年10回以上行うことができたか。</li> <li>③教育支援相談会参加保護者アンケートにおいて「参考になった」の項目を9割以上達成できたか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの拡充、高等学校通級指導県モデル校への支援、就学・転学に係る情報提供がスムーズに進み、センター的機能の一層の充実が繋がった。</li> <li>①ボランティアの拡充を図るため、3大学(立正大学・埼玉工業大学・高崎健康福祉大学)にPR活動を行うことで、理解啓発が進んだ。</li> <li>②師範授業を41回、相談を15回実施、高校における通級指導に関わる連携・協力が進んだ。</li> <li>③保護者からのアンケート集計で96%の満足度を得られた。</li> </ul>	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成31年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達検査に基づいた指導や結果を確認する研修等の取組は素晴らしい。学校、学部として一貫した指導がされている。</li> <li>・継続して検証していく研修は素晴らしい。</li> <li>・実践した指導案を拝見したところ、授業での学習のねらいや活動がよく理解できた。</li> <li>・保護者アンケートの数値は良いのだが、中学部と小学部高学年で評価が逆転した項目があった。一つの成果が別の課題を生んでいる。</li> <li>・マイナス面の保護者の意見にどのように回答していくかが大切である。</li> <li>・教員の負担軽減が教育力の低下に繋がってはいけないことを踏まえ、働き方改革について、時流に乗った取り組みがされている。今後も保護者の意見を大切に教育活動に取り組んでほしい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育実践アワードでの表彰は「開かれた教育課程の」先進的な取組である。</li> <li>・今回のシステムシートは高い評価になっている。取組状況を伺うと、納得できる評価である。</li> <li>・先生方が一生懸命生徒たちと向き合っただけでブラッシュアップしている成果が進路実績に繋がっている。一般就労がすべてではないが、「キャリア教育=働く力」を作りあげている。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアについて、育成講座の資料を学生用に使いたい。学生たちを現場に出していきたい。</li> <li>・学校の課題というより、県のシステムの問題だと思うが、通級のベテランを高校に配置したほうが効率的ではないか。</li> </ul>	

